

第二期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会の報告書

周辺住民代表と学識経験者、市により構成される第二期施設・周辺整備協議会では、新施設の備えるべき機能や周辺地域のまちづくりなどについて協議し、報告書をまとめました。新工場棟「エコセンター（仮称）」の建築デザイン方針とエネルギー供給方針を定め、事業者選定において事業者に要求する条件としました。また、併設する環境啓発施設「エコプラザ（仮称）」の検討、周辺地域のタウンウォッチングを通じた周辺地域の課題整理などを行いました。

●エコセンター（仮称）の建築デザイン方針

外観について、ごみ焼却施設というイメージを与えない建築デザインを実現するため、「すべての面が“オモテ”になるデザイン」「やわらかく“やさしい”デザイン」「いつでも“人の姿を感じる”デザイン」の3つのデザイン方針を定めました。



●エコセンター（仮称）のエネルギー供給方針

ごみ発電設備とガス・コージェネレーション設備（ガスタービン）を導入し、市役所・総合体育館・緑町コミュニティセンターに安定的にまた災害時にもエネルギーを供給可能とするシステム構築などの方針を定めました。

●エコプラザ（仮称）の検討

現クリーンセンターの事務所棟とプラットホームを再利用して整備する環境啓発施設「エコプラザ（仮称）」の基本理念などを検討しました。低炭素社会の実現のため、ライフスタイルを変え、ごみ減量につなげる環境啓発施設として、「ごみから学ぶ」「ごみから新たな価値あるものをつくる（アップサイクル）」「ごみを媒介に対話を生み出す」などの必要とされる機能について議論し、次期以降の協議会でさらに検討を進める予定です。

●タウンウォッチングの実施

クリーンセンター周辺のタウンウォッチングにより地域の特徴や課題を確認し、「クリーンセンターを核とする周辺地域のまちづくり」に向けた今後の議論に引き継ぐ資料として意見をまとめました。



報告書はホームページでご覧いただけるほか、以下でも配布しています。

【ホームページ】http://www.city.musashino.lg.jp/gomi_kankyou_eisei/clean_center/index.html

【配布場所】クリーンセンター、市政資料コーナー、各市政センター、コミュニティセンター、図書館

新武蔵野クリーンセンター（仮称） 建設事業 説明会のお知らせ

新武蔵野クリーンセンター（仮称）建設事業について

現クリーンセンターは昭和59年に建設され、稼働から28年が経過しました。設備の耐用年数などの状況から建替えが必要なため、平成26年から新施設の建設を進め、平成29年度からの稼働を目指しています。

これまで新施設の計画について市民参加による話し合いが進められ、昨年度末に周辺にお住まいの方々と学識経験者、市により構成される「第二期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会」の報告書がまとまりました。また、新施設の整備・運営を行う事業者も決定いたしました。

協議会の報告書を含めたこれまでの建設計画の経緯や建設事業の概要について説明会を開催しますので、ぜひご参加ください。

説明会の日程

- 1 武蔵野緑町パークタウン B7号棟集会所
7月20日（土曜日）午前10時から
- 2 緑町コミュニティセンター
7月27日（土曜日）午前10時30分から
- 3 けやきコミュニティセンター
7月27日（土曜日）午後2時から
- 4 都営武蔵野第3アパート集会所
7月28日（日曜日）午前10時から

*各説明会の内容は同じです。お住まいの地域に関わらず、ご都合のよい会にご出席ください。事前申込不要です。

会場案内図



説明会にご参加ください！



お問い合わせ

武蔵野市 環境部 クリーンセンター

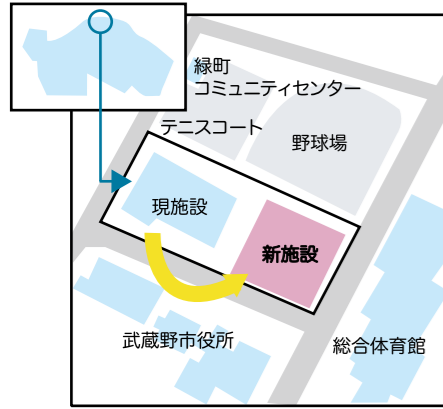
電話番号 0422-54-1221



新武蔵野クリーンセンター（仮称）イメージ

* 若干変更となる可能性もあります

新武蔵野クリーンセンター（仮称）建設事業の概要



●建設地
 周辺住民の方々のご理解とご協力により現クリーンセンター敷地内東側に新施設を建設します。現施設を稼働しながら、新施設の建設を安全に進めていきます。

●施設概要
 敷地面積：17,000㎡ 建物高さ：新工場棟 約15m 新管理棟 約10m
 煙突高さ：59m
 発電能力：約15,000MWh/年
 処理能力：120t/日（ストーカ式焼却炉2炉）粗大・不燃ごみ処理施設 10t/5時間

●整備・運営事業者
 新施設の設計、施工から完成後の20年間の運営を一括発注するDBO（デザイン・ビルド・オペレート）方式を採用し、事業者提案の審査点と入札金額の価格点の合計点数によって落札者を決定する総合評価一般競争入札を実施しました。本年7月に議会の議決を経て、事業者が決定しました。

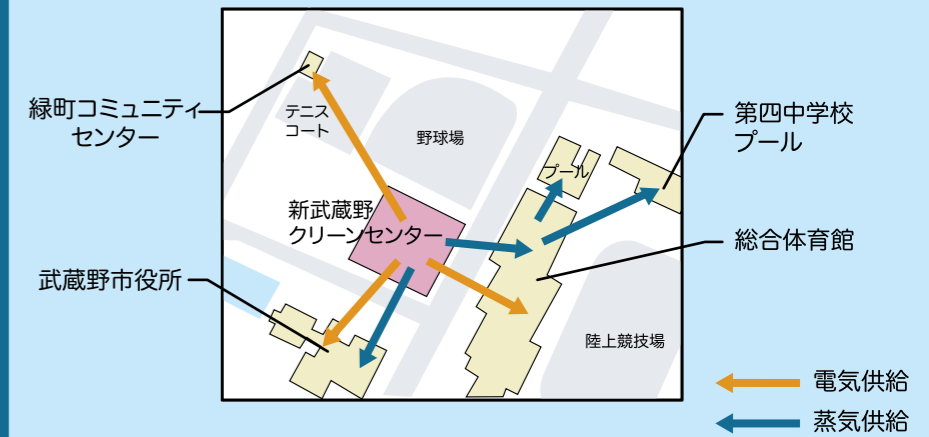
- ・事業者（代表企業） 荏原環境プラント株式会社
- ・整備費用 103億7400万円（税込）
- ・20年間の運営費用 101億100万円（税込）

◎新施設のコンセプト

周辺の方々をはじめ、市民にとって誇りとなる施設の建設を目指し、環境の保全に配慮した安全・安心な施設づくり、災害に強い施設づくり、景観及び建築デザイン等に配慮したコンパクトな施設づくりなどをコンセプトとしています。

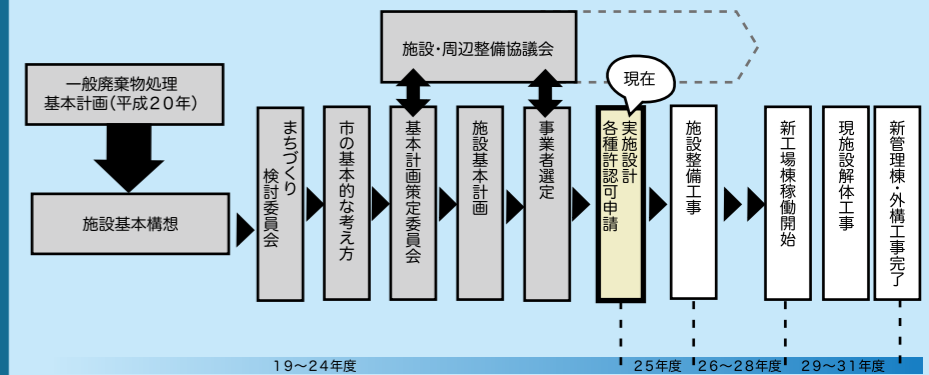
- 煙突**
煙突は現在の煙突を耐震補強し再利用します。パース中の煙突デザインはイメージです。今後デザインの検討をすすめていきます。
- 外装デザイン**
武蔵野の雑木林をイメージしたテラコッタルーバー（格子状に配列する素焼きの外装材）と緑化により壁面をやわらかく包み込みます。
- プラント（工場設備）**
最新鋭のプラント設備を導入し、全国でもトップレベルの排ガス自主規制値を達成していきます。
- 地下のプラットフォーム**
建物の大きさを抑え、騒音やにおいに配慮するためプラットフォーム（収集車のごみを搬入する場所）を地下化しました。
- コミュニティスペース（中央通り沿い）**
プラットフォームの上部には、誰でも自由に入ることのできる公開空地、コミュニティスペースを設置します。のぞき窓から地下にあるプラットフォームを見ることができます。イベントも開催することができる市民の憩いの場です。
- 新管理棟**
市の事務所や見学者ホールなどが入ります。
- 新工場棟「エコセンター（仮称）」**
- 既存事務所棟**
*環境啓発施設「エコプラザ（仮称）」として整備予定

●エネルギーの供給・災害に強い施設づくり



現在のクリーンセンターはごみを燃やした熱を蒸気で市役所や総合体育館、第四中学校プールに送り、給湯や冷暖房、温水プールの熱源に活用しています。新施設ではさらに、ごみ発電設備も導入し、発電した電気をクリーンセンターで利用するほか、市役所や総合体育館、緑町コミュニティセンターにも供給することができるようにします。災害に強い施設づくりとして、建物・煙突の構造は耐震基準の1.25倍とします。また、ガスコージェネレーション設備も導入し、災害時においても発電し、エネルギーを供給できるシステムとします。

●スケジュール



●屋上
 屋上には太陽光発電パネルを設置し緑化を行います。緑化の一部は生ごみ堆肥を用いた菜園とします。



●見学者コース
 誰でも自由に見学することができる見学者コースです。新工場棟の2階を一周することで、ごみ処理の流れがわかります。ショーウィンドウのような大きなガラス窓の向こう側に工場の機械を望むことができます。

*パースはイメージです。変更となる可能性もあります。